

WebEdge 3.8.2J インストール・ガイド

マニュアル・バージョン3.8.2

2004年 5月

目次

| | |
|--|---|
| 1. WebEdge 3.8.2 のインストール..... | 1 |
| 1.1 必要とされるシステム..... | 1 |
| 1.1.1 ハードウェア..... | 1 |
| 1.1.2 ソフトウェア..... | 1 |
| 1.1.3 必要とされるブラウザ..... | 1 |
| 1.1.4 必要な設定情報..... | 1 |
| 1.2 WebEdge のバックアップ..... | 1 |
| 2. WebEdge3.8.2 のインストール方法..... | 2 |
| 2.1 Windows 2000, Windows Server 2003 Standard/Enterprise..... | 2 |
| 3. WebEdge と Post.Office の連携について..... | 4 |
| 3.1 Post.Office との連携..... | 4 |
| 3.2 連携方法..... | 4 |
| 3.2.1 Post.Office 側の設定..... | 4 |
| 3.2.2 WebEdge 側の設定..... | 5 |
| 4. WebEdge の Web インタフェース..... | 6 |
| 4.1 管理者インタフェースへのアクセス方法..... | 6 |
| 4.2 ユーザインタフェースへのアクセス方法..... | 6 |
| 5. WebEdge サーバの起動と停止..... | 6 |
| 5.1 起動方法..... | 6 |
| 5.2 停止方法..... | 6 |
| 6. WebEdge サーバをアンインストールする方法..... | 6 |

2. WebEdge3.8.2 のインストール方法

2.1 Windows 2000, Windows Server 2003 Standard/Enterprise

WebEdge3.8.2のインストール手順を以下に示します。

！ご注意！

古いバージョン(Post.Office WebMail EditionのWebEdge3.6, Post.Office Advanced EditionのWebEdge3.8.x)をアップデートインストールする場合は、WebEdgeディレクトリ(デフォルトでは、C:¥Program Files¥WebEdge)のバックアップコピーを必ず行ってください。

！ご注意！

通常、Windows 2000 Serverでは、Windows標準のWebサービスとして、IIS (Internet Information Services) や World Wide Web Publishing Service (以後WWW Publishing Service)が稼働しており、80番ポートを使用しています。(管理ツール インターネットサービスマネージャやサービスにて確認ができます)
IISやWWW Publishing ServiceとWebEdgeを併用して運用される場合は、WWW Publishing Serviceのポート番号を80番以外に変更するか、WebEdgeのインストールの「6. Port番号 / ホスト名設定画面」にて、80番以外のポート番号を設定してください。

0. WebEdgeの停止(アップデートインストールの場合)

アップデートインストールを開始する前に、動作中のWebEdgeシステムを停止する必要があります。[プログラム]メニューの[WebEdge]から[WebEdge Stop]を選択してください。



図1. WebEdge 3.x の停止

WebEdgeの停止後、WebEdgeディレクトリのバックアップを行います。

1. インストーラの起動

「Administrator」でWindowsにログイン後、インストーラを起動します。インストーラ・ファイルの「webedge38x-yyyyymmdd-hhmm.exe」をダブルクリックしてください。



図2. インストーラの起動

2. Welcome

“Welcome”画面が表示されます。“Next”ボタンをクリックしてください。

3. WebEdge Software License Agreement

“WebEdge Software License Agreement”画面が表示されます。“I Accept”ボタンをクリックしてください。

4. Choose Destination Location

WebEdgeをインストールするボリュームおよびディレクトリを設定します。WebEdgeのインストール先ディレクトリ(WebEdgeディレクトリ)がデフォルトの設定でよければ、“Next”ボタンをクリックしてください。

5. Select Program Manager Group

デフォルトの設定でよければ、“Next”ボタンをクリックしてください。

6. Port番号 / ホスト名設定画面

WebEdgeのサーバポート番号 (Web Server Port) および管理ポート番号 (Administrator Port) を設定します。現在の設定情報が表示されていますが、ポート番号の変更がなければそのままにしておき、「Host Name」の箇所にはF.Q.D.N (Fully Qualified Domain Name : ホスト名 + ドメイン名 例 : server.domain.co.jp) の形式で、WebEdgeを稼働するホスト名を設定し、「Next」ボタンをクリックしてください。

7. 管理者パスワード設定画面

管理用のパスワードを設定します。パスワードを入力後、「Next」ボタンをクリックしてください。

8. Start Copying Files ダイアログ

設定された情報を確認後、「Next」ボタンをクリックしてください。データのコピーが開始されます。

9. Install Done ダイアログ

インストールが正常に終了しました。「Done」ボタンをクリックしてください。

(「WebEdgeをすぐに起動する」、「管理者Webインタフェースを表示させる」のチェックボックスはそのまま終了させます。WebEdgeが正常に起動しているか確認できます)

10. 古いWebEdgeをアップデートインストールされた場合 (mobility.cfgファイル)

現在のWebEdgeディレクトリ (デフォルトではC:\Program Files\WebEdge) 下のconfig_mdnディレクトリにある「mobility.cfg」ファイル中の次の項目を、バックアップしたWebEdgeディレクトリ下のconfig_mdnディレクトリにある「mobility.cfg」の内容と比較します。(mobility.cfgファイルはWebEdgeのコンフィグレーションファイルになります)

```
MSG_STORE_SERVER
SMTPHOST
```

もし異なっていた場合は、エディタ等を利用して、バックアップされた「mobility.cfg」の項目の内容を、現在のWebEdgeディレクトリ下にある「mobility.cfg」ファイルの該当項目に書き写します。
この作業を行う前にWebEdgeが稼働している場合は、再度WebEdgeを停止させてください。

その他の設定値につきましては、お手数ではございますがWebEdgeを起動後に管理者Webインタフェース画面にて、再度設定をやり直してください。

11. 古いWebEdgeをアップデートインストールされた場合 (mdnrez.propertiesファイル)

現在のWebEdgeディレクトリ (デフォルトではC:\Program Files\WebEdge\config_mdn\lang\ja_JP) 下のresourcesディレクトリにある「mdnrez.properties」ファイル中の次の項目を、バックアップしたWebEdge\config_mdn\lang\ja_JPディレクトリ下のresourcesディレクトリにある「mdnrez.properties」の内容と比較します。

その際、次の項目については、今回のアップデートにて変更されている項目ですので、値を変更せずにそのままにしておいてください。

アップデート以前の値 (バックアップされたデータ)

```
HTTPEncoding=shift_jis
SMTPSubjectEncoding=auto
SMTPTextPartEncoding=auto
```

今回のアップデート後の値 (現在設定されている値: : この値にしておく)

```
HTTPEncoding=MS932
SMTPSubjectEncoding=B
SMTPTextPartEncoding=7bit
```

その他の異なっていた項目については、エディタ等を利用して、バックアップされた「mdnrez.properties」の項目の内容を、現在のWebEdgeディレクトリ下にある「mdnrez.properties」ファイルの該当項目に書き写します。
この作業を行う前にWebEdgeが稼働している場合は、再度WebEdgeを停止させてください。

！ ご注意！

【Post.Office Advanced EditionのWebEdge 3.8.xからアップデートされた場合の追加事項】

WebEdgeをIMAPにて利用されていたお客様 (管理者Webインタフェースにて [メール/DB] リンク [WebEdge設定] 画面にある「デフォルトメールボックスプロトコル」をIMAPにしていた場合) は、設定がデフォルト値のPOPに戻ってしまっているので、管理者Webインタフェースの「デフォルトメールボックスプロトコル」をIMAPに再設定してください。

3. WebEdge と Post.Office の連携について

3.1 Post.Office との連携

InterMail Post.Office WebMail Edition 3.6 日本語版、InterMail Post.Office Advanced Edition 3.8 日本語版をご利用になっている方は、Post.Office と WebEdge を連携させることができます。Post.Office 上に登録されたすべてのアカウントユーザとそのメールボックスを連携させることで、WebEdge を Web メールシステムとしてご利用になることが可能になります。

3.2 連携方法

Post.Office WebEdge 間の連携は、LDAP プロトコルを利用してユーザ情報の共有を行っています。これは、Post.Office 側と WebEdge 側の設定が必要です。

3.2.1. Post.Office 側の設定

Post.Office の管理者画面にて、「システムコンフィグレーション」 「LDAP サービスの設定」で行います。「LDAP アカウントサービス」フォームは次のようになっています。

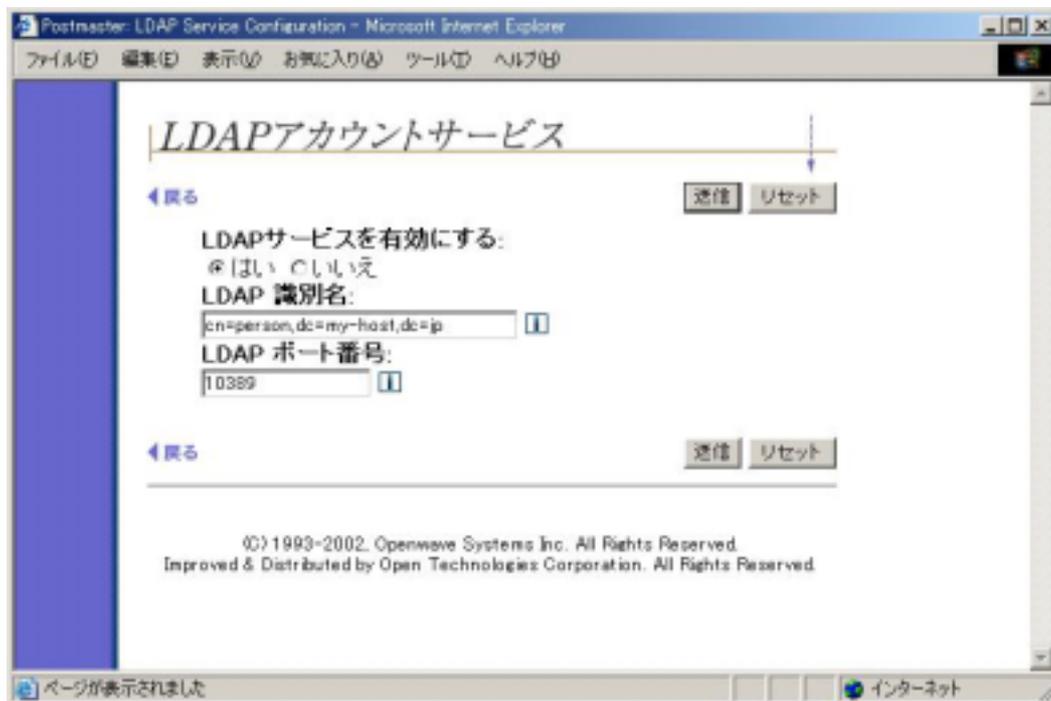


図 3. LDAP アカウントサービスフォーム

1. LDAPサービスを有効にする

「はい」を選択します。

2. LDAP 識別名

LDAP ディレクトリはツリー構造のデータベースになっています。ツリー構造データの階層格納構造を特定するための識別子が識別名です。Post.Office と連携する際は、この識別名を使ってユーザ情報を共有します。このフィールドには、以下を設定してください。

```
cn=person,dc=my-host,dc=jp
```

3. LDAP ポート番号

LDAP で通信する際に使用するポート番号を入力します。このフィールドには、以下を設定してください。

```
10389
```

！ ご注意！

Post.Office と WebEdge 間で連携を行う場合は、必ず上で指定した LDAP ポート番号による通信が可能になっていなければいけません。(他のサービスで利用している、ポートを閉鎖している等はチェックしておいてください)

4. WebEdge の Web インタフェース

4.1 管理者インタフェースへのアクセス方法

管理者Webインタフェースにアクセスすることで、WebEdge のコンフィグレーションを行うことができます。

Windows環境で管理者Webインタフェースにアクセスする手順：

1. [スタート]メニューから、プログラム> WebEdge > Administer WebEdge に進みます。管理者ログインページが表示されます。ページが表示されない場合は、Webブラウザから、http://your_server_name:指定したポート番号/ にアクセスします。
2. インストール時に設定した管理者パスワードを入力し、認証をクリックします。

4.2 ユーザインタフェースへのアクセス方法

Windows環境でユーザインタフェースにアクセスする手順：

1. [スタート]メニューから、プログラム> WebEdge > WebEdge User Login に進みます。管理者ログインページが表示されます。このページが表示されない場合は、Webブラウザから、http://your_server_name:指定したポート番号/ にアクセスします。
2. 次の情報を入力します。
 - ・ メールサーバのアカウントID (POP/IMAPアカウントID 等)
 - ・ パスワード
 - ・ サーバ名 (空白の場合はデフォルトメールサーバ、localhostの場合はWebEdgeがインストールされたマシン上のメールサーバです)
3. 認証をクリックします。

5 WebEdge サーバの起動と停止

5.1 起動方法

Windows環境でWebEdge サーバを起動する手順：

- ・ [スタート]メニューから、プログラム> WebEdge > WebEdge Start に進みます。

5.2 停止方法

サーバを停止すると、次の状態になります。

- ・ プロセスは、ただちに終了します。
- ・ サーバと接続しているWeb ブラウザは、ただちに切断されます。
- ・ データベースは、サーバの再起動時にインデックスを再構築します。

！ ご注意！

WebEdgeサーバをシャットダウンする場合は、管理者Webインタフェースの管理者メニューにある[シャットダウン]ページに移ってシャットダウンをする方法が望ましい終了手順です。管理者オンラインヘルプの「WebEdge サーバのシャットダウン」を参照してください。

Windows環境でWebEdgeサーバを停止する手順 1：

- ・ 管理者Webインタフェースの管理者メニューにある[シャットダウン]ページに移ってシャットダウンを実行する。

Windows環境でWebEdgeサーバを停止する手順 2：

- ・ [スタート]メニューから、プログラム> WebEdge > WebEdge Stopに進みます。

6 WebEdge サーバをアンインストールする方法

Windows環境でWebEdge をアンインストールする手順：

- ・ [スタート]メニューから、プログラム> WebEdge > UnInstall WebEdge に進みます。

！ ご注意！

アンインストールを行うとWebEdgeディレクトリごと全てを削除します。

[商標]

UNIXは、The Open Groupの米国およびその他の国における登録商標です。
Pentiumは、Intel Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Windows および Internet Explorer は、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Sun、Solaris、Java およびすべての Java 関連の商標は、Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
すべてのSPARC商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。
Linuxの名称は、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標です。
RedHat は、RedHat Software, Inc の登録商標です。
Apple、Mac OS X は、Apple Computer, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
本ドキュメントに記載されているその他の製品、ブランド、および会社名は、それぞれの所有者の商標、登録商標、または職標である場合があります。

(C) 1993-2002, Openwave Systems Inc. All Rights Reserved.

(C) 2002 Open Technologies Corporation. All Rights Reserved.

Improved & Distributed by Open Technologies Corporation.